



## 熱に負けない

▽:「形状記憶合金は調理器具や医療器具など幅広い分野で使われている。今後もその活用範囲

「研究の結果、200度Cでも作動が確認できた。量産が可能になれば、自動車部品や火災警報機、ロケットなどにも利用できる」と夢は膨らむ。



宮崎さん

▽:さらに「内部が高温になる電子機器でも採用が

は広がっていく」と話すのは、筑波大学教授の宮崎修一さん。

進むだろう。携帯電話の部品に使えば、本体をより小さくできる」と、熱に負けない形状記憶合金の将来性を熱く語る。

▽:従来、80度C以上で形状記憶の機能を失う課題があった。しかし、